

第36回 巨大石造物から判明！曾木温泉のルーツ

今年で最後となったもみじのライトアップで有名な曾木公園。そのすぐ近くに「君が塔」と呼ばれる巨大な石造物（五輪塔）があるのを皆さんはご存じでしょうか。君が塔は曾木温泉の湯屋の遊女「お君」の供養塔として中世の頃に造られたと言われていますが、近年の調査で次の事が明らかとなりました。造立時期は、奈良県西大寺（律宗）にある叡尊塔と呼ばれる大型五輪塔（高さ約3.5m）と同じ形態や規格性を持っているため、室町時代（14世紀後半）と考えられ、律宗寺院の石工集団が関与したと推察されます。一部の部材が消失していますが、復元した高さは約2mを測り、市内では最大規模です。律宗寺院は各地で布教をしながら様々な社会事業を実施したことで知られており、その中でも貧しい人々や病人などに浴室を開放して入

浴を施す「施浴」や、インフラ整備（建物、道路など）を行っています。君が塔周辺には「湯屋」という地名が残されていることから、律宗寺院の集団が温泉施設を建設したと考えられ、その建設事業の完成あるいは律宗の布教を示すためのモニュメントとして五輪塔が築かれたと推察されます。これを裏付けるように、曾木温泉周辺からは、室町時代から江戸時代（14〜17世紀）の陶器が多数採集されているため、この辺りに建物があつたと考えられます。この地の東西には古い街道の中馬街道も通っているため、おそらく旅人たちの疲れを癒す場でもあつたのだでしょう。現在でも国道363号線の北側に中馬街道が残っています。街道散策をしながら「君が塔」を見学してはいかがでしょうか。



君が塔



君が塔周辺地図

イベントのご案内



美濃陶磁歴史館  
☎55-1245

